第４回山ノ内町立学校づくり準備委員会　次第

日　時　令和７年８月２６日（火）
　　午後５時３０分～午後７時３０分
場　所　よませふれあいセンター　軽運動室

１．開　　会

２．委員長あいさつ

３．報告事項
（１）前回委員会の会議結果について

４．会議事項
（１）統合学校の開校に向けたコンセプトについて（※グループ討議）
〈テーマ〉
「これからの学校と多様な学びについて」

５．その他
①県内視察について

②学校づくりにかかるシンポジウムについて

６．閉　　会

山ノ内町立学校づくり準備委員会８月ワークショップ名簿

	所属等	氏　名	グループ
1	西小学校ＰＴＡ	渡邉　　充	A
2	志賀高原保育園保護者会	佐藤　穂積	
3	東小学校長	北垣内　博	
4	里山ようちえん　おやまのおうち	山崎　龍平	
5	主任児童委員	佐藤　重子	
6	公募委員	新井　彩香	
7	オブザーバー（専門部会委員）	望月和佳奈	
1	南小学校ＰＴＡ	平原　　剛	B
2	ほなみ保育園保護者会	山戸真理子	
3	西小学校長	竹内　由紀	
4	区長会	山崎　　昭	
5	子ども会育成会連絡協議会長	下田　敏雄	
6	ＩＣＴ教育コーディネーター	清水　　智	
7	オブザーバー（専門部会委員）	瀬川　夏実	
1	山ノ内中学校ＰＴＡ	小湊　崇法	C
2	かえで保育園保護者会	大硲　若菜	
3	山ノ内中学校長	山口　　近	
4	園長会（志賀高原保育園長）	岩本　　光	
5	議会社会文教常任委員会委員長	髙田　佳久	
6	社会教育委員	羽田　吉彦	
7	オブザーバー（専門部会委員）	金井　　学	
1	東小学校ＰＴＡ	南條信太郎	D
2	よませ保育園保護者会	小淵　正成	
3	すがかわ保育園保護者会	丸山恵美子	
4	南小学校長	中村まゆみ	
5	学識経験者（学校長経験者）	原　　隆文	
6	公募委員	杉戸　香奈	
7	オブザーバー（専門部会委員）	畔上　恵子	
	学識経験者（信州大学）	伏木　久始	

事務局	教育長	竹内　延彦	B
	教育次長	望月　弘樹	A
	こども未来課学校統合準備係長	山本　敏幸	C
	こども未来課学校統合準備係	畔上　俊樹	D
	こども未来課学校統合準備係	菅原　勇介	

資　料　1

山ノ内町立学校づくり準備委員会　会議結果報告書

会 議 名	第３回　山ノ内町立学校づくり準備委員会	
日　　時	令和７年７月２３日（水）　午後５時３０分～午後７時３０分	
会　　場	山ノ内町文化センター　３階　ホール	
出席・傍聴人数	出席　２１人　／　欠席　８人	傍聴者　６人
会議内容	【報告事項】 ・前回委員会の会議結果について（資料１） ・保護者及び地区懇談会の開催結果（資料２、４） 【会議事項】 (1)学校統合の開校に向けたコンセプトについて ＜テーマ＞コミュニティ・スクールについて『グループ討議』（資料５） ４グループに分かれコミュニティ・スクールに関する意見を自由に出し合い、新しい学校づくりに向けた意識の共有を図った。 【その他】 ・学校づくり準備委員会視察について	
決定事項等	・学校づくり準備委員会専門部会員に決定している委員もオブザーバーとして、グループ討議に参加する。 ・学校づくり準備委員会の視察を１０月１日（水）に実施 ・次回準備委員会：令和７年８月２６日（火）17：30～	
会議概要及び質問・意見等	**【コミュニティ・スクールについて（グループ討議）】** **〇コミュニティ・スクールへの期待と課題** ・20～40 代子育て世代は平日の学校活動が仕事等により参加しにくい状況。 ・事業者と一緒にクラブ活動を行うことで仕事に直結する体験が提供できる。 ・特定の人に依存せず仲間を増やし、持続して活動していくことが重要。 ・先生の負担を考慮しつつ地域と学校が気軽に話し合える雰囲気作りが重要。 ・既存の青年団や消防団が変化している現状を踏まえ、コミュニティ・スクールを支える新しい組織の在り方や参加を促す方法を検討する必要がある。 **〇地域の一体感の醸成** ・「東西南北」といった地域間分断を解消するため、学校を中心に楽しいイベントを企画し、町全体で積極的に関わる雰囲気づくりが良いと思う。 ・「東部」「西部」という呼び方ではなく、地区名（穂波、須賀川等）で呼ぶ。 ・コロナ禍で減少した地域の祭りや行事について、コミュニティ・スクールを拠点に復活させ、こどもたちに文化を継承する場を提供することが重要。 ・大人が楽しめる企画を学校と連携して実施し、こどもたちも一緒に参加することで新しい統合学校が町全体のシンボルとなるようにする。 ・中学生が行っている商品開発プロジェクトのように、役場や飲食店等を巻き込んで町づくりを体感する機会はこどもたちが町の愛着を高める上で有効。 **【その他意見等】** ・住民の意見集約について説明会の開催時期・時間帯や周知方法の課題や SNS の活用、アンケート調査等による意見集約について提案があった。	

第3回 学校づくり準備委員会 グループワークのまとめ

1　学校施設を使って大人が好き勝手にやっていいとしたら

○ 遊び・レクリエーションを通じた多世代交流

学校施設を舞台に、こどもと大人が一緒に楽しめる活動アイデアが豊富に出された。普段できない体験や、昔行われていた活動の復活に期待が集まり、大人も全力で楽しむ姿を見せることが重要と認識された。

具体的なアイデア例: 乗用モアレース、ギネス記録挑戦、学校探検、全校ご飯、学校で逃走中、火おこし体験、焼き芋大会、ジビエ給食、サップ体験、料理、音楽（コカリナ演奏、レコーディング）、大規模絵画制作、カラオケ大会、コンサート、学校博物館、屋外映画上映、理科の実験、SNS や AI の使い方学習、キャンプファイヤー、学校でお泊り会、マルシェ、ビアガーデンなど。

○ 地域連携とコミュニティスペースの活用

学校を教育施設だけでなく、地域住民が集い交流する場とすることの重要性が議論された。公民館機能を学校に取り込むコミュニティスペース設置や、地域住民が日常的に学校に関わる「見守り」の視点も挙げられた。地域住民が講師となりクラブ活動を実施するアイデアも出た。

今後意見交換をしたいこと

- 多くのアイデアをどう具体化するか。（失敗でもいいのでやってみる）
- 学校施設活用における安全管理や学校側の負担や負担感の軽減策。

2 コミュニティ・スクール（C・S）への期待や疑問

○ コミュニティ・スクールの現状と課題

C・S 導入にあたり、運営の持続可能性や、年代・地域による関心の差が課題として挙げられた。

主な課題点:

- 制度への疑問（信州型と文科省型の違い　なぜ2つの仕組みがあるのか）。
- 高齢層や子育て世代の参加の難しさ。
- 人材確保の難しさ、特定の個人への負担集中。
- 従来の PTA 活動などの負担意識や、「危険だから」といった活動制限。
- 学校（先生方）と地域とが知り合う場面のすくなさ。先生方の業務増加への懸念。

○ コミュニティ・スクールへの期待と解決策

課題がある一方で、C・S に対する期待も寄せられた。学校と地域が連携することで、新たな活力を生み出し、こどもたちの成長、地域の活性化につながる可能性が議論された。

主な期待と解決策:

- イベントだけでなく、日常的な活動への発展。
- 若い世代の積極的な関与による新しい風。

- 事業者がクラブ活動に関わるなど、多様な専門性との連携。
- 仲間づくりの重要性、成功・失敗事例の共有。
- 地域のお祭り復活など、地域課題の解決。
- 地域と学校（先生）がざっくばらんに話し合い、互いの認識を深めることの重要性。
- 趣味を活かしたクラブ活動など、参加へのハードルを下げる工夫。
- 「こどものため」という意識があれば保護者は集まる傾向にある。（これで持続できるかは難しい）

今後意見交換をしたいこと

- 持続可能な C・S 運営体制の構築、特定の個人に負担が集中しないための役割分担。
- 潜在的な協力者を掘り起こし、学校活動に巻き込む具体的なアプローチ。
- 学校（先生方）の C・S への理解を深め、負担を軽減しながら連携を強化する方法。
- 山ノ内町に最適な C・S の形をどう見出すか。

---

3 山ノ内町全体が「地元」という意識の醸成について

○ 地域間の分断意識の現状

山ノ内町には歴史的に地域間意識があり、特に東西南北で文化の違いがあることが共有された。懇談会の参加者数にも地域差が見られ、高齢者ほど地域への愛着が強く、地域間意識も強い傾向があると指摘された。

○ 一体感醸成への提案

地域間の分断を乗り越え、山ノ内町全体を「地元」という意識で捉えるための方策が議論された。

主な提案:

- コミュニティ・スクールを通じた地域のつながり。
- 多世代交流の促進（特に中学生にとって重要）。
- 共同作業を通じた地域のつながり強化と文化継承。
- 学校の総合的な学習の時間などでの、地域を巻き込む活動での協働。
- 楽しいイベント開催による地域住民の参加促進。
- 生徒が SNS を活用するなどしての、町全体の発信力の強化。（児童生徒の発信を町民が受けとる）
- 「東西南北」という言い方をやめて地区名で呼ぶことなど、意識改革。
- 地域ごとの特色を活かしたワークショップ。

今後意見交換をしたいこと

- 山ノ内町の地域間の分断意識を解消するための具体的な第一歩は何か。
- 「東西南北」という呼び方を変えるなど、地域間の意識改革を促す具体的な働きかけ。
- 自然な形で地域住民が交流を深められる機会をどう増やしていくか。

○ 伏木先生のまとめ：地域で育む「原風景」

大人が学校を利用して全力で楽しむ姿が重要と認識された。「原風景」という言葉が引用され、地域の人々とのつながりがこどもたちの記憶に深く残り、郷土愛を育むと話があった。C・S が、地域の人々がつながり、会話をする機会を創出し、家族のような関係性を築く「仕掛け」となることが期待されている。

資料2

8月26日　学校づくり準備委員会

意見交換

「一人ひとりの個性が輝く

これからの学校と多様な学びの実現」

○新しい学校の最上位コンセプト（山ノ内町こどもワクワク教育未来ビジョンより）

こども一人ひとりが自らの興味関心をワクワクしながら楽しく深めることのできる学び

ができる学校

こどもも大人もともに学び育つ

○基本コンセプト

① ESD教育の推進
「多様な地域資源を活用した
体験重視の学び」

② グローバル教育の推進
「外国語を習得し世界を学ぶ」

③ スポーツ・芸術の推進
「スポーツと芸術を楽しみ
健康的な心と体を育む」

④ 人権教育の推進
「誰一人取り残されない一人
ひとりの学びを支える」

⑥ 義務教育学校「9年制の連続した質の高い教育の推進」＝「たて」のつながり

⑤ コミュニティ・スクールの充実「地域全体でこどもたちを支える」＝「よこ」のひろがり

こどもにやさしい まちづくり

新しい学校では、誰一人取り残されない、

一人ひとりの学び、個性が大切にしあえる環境を充実させたい

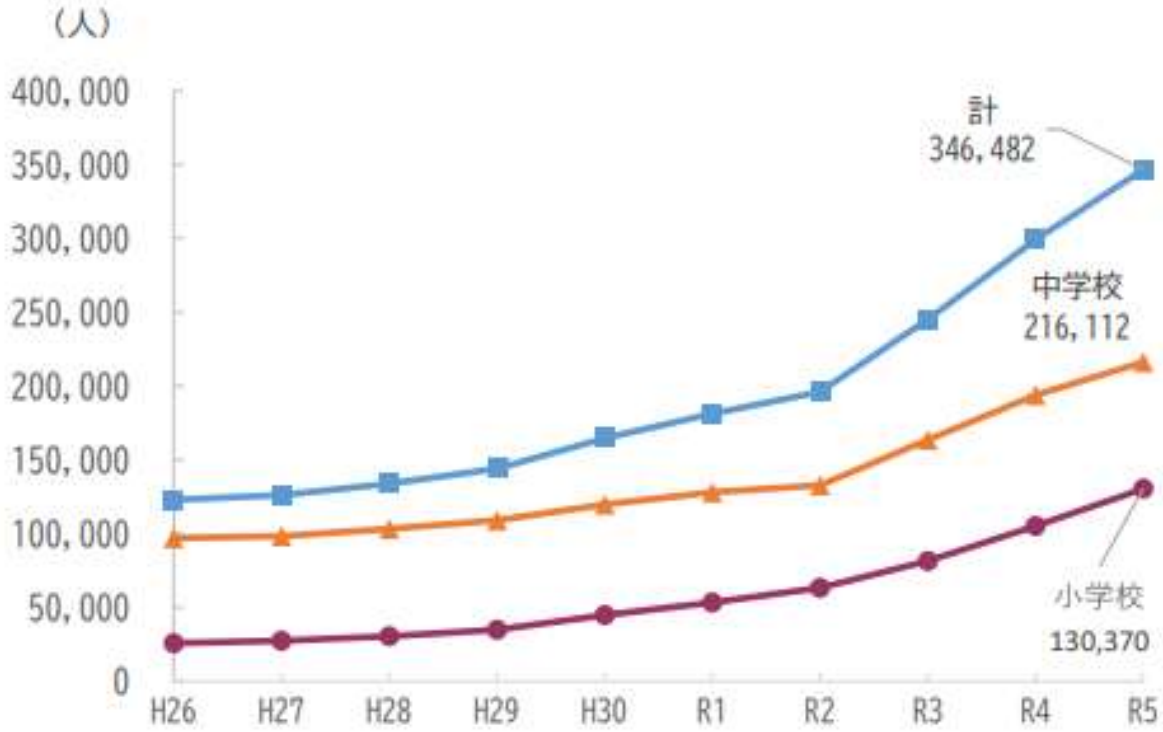
今　全国の学校では・・・

令和６年10月31日公表児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果より

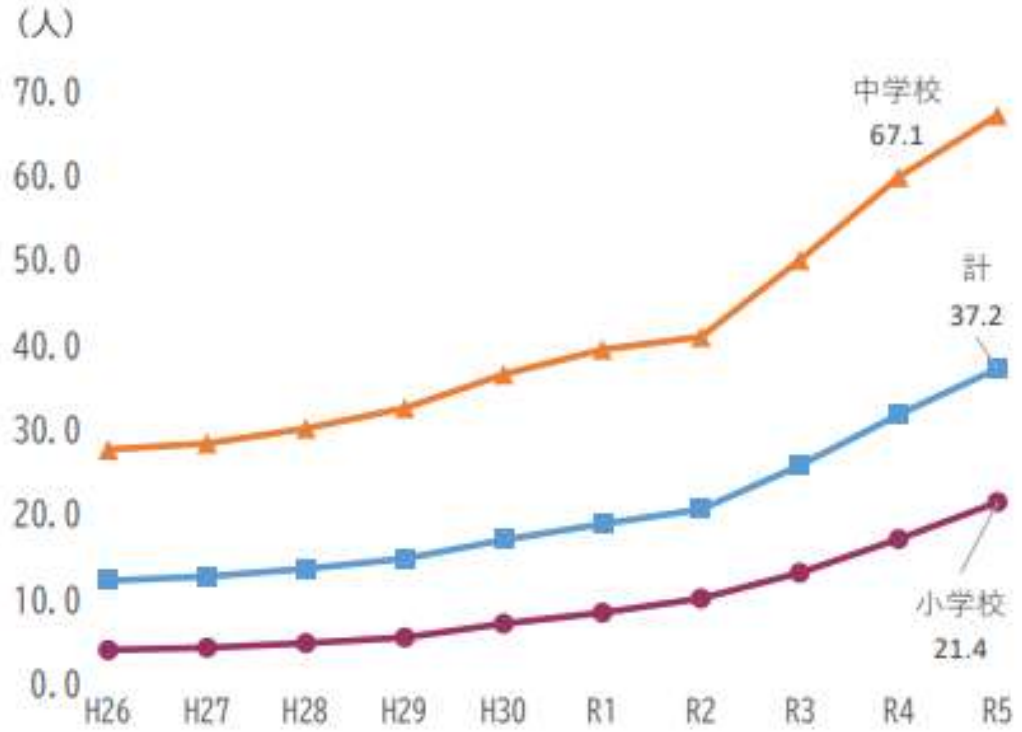
小・中学校における不登校の状況について

- 小・中学校における長期欠席者のうち、不登校児童生徒数は346,482人（前年度299,048人）であり、児童生徒1,000人当たりの不登校児童生徒数は37.2人（前年度31.7人）。
- 不登校児童生徒数は11年連続で増加し、過去最多となっている。

不登校児童生徒数の推移



不登校児童生徒数の推移（1,000人当たり不登校児童生徒数）



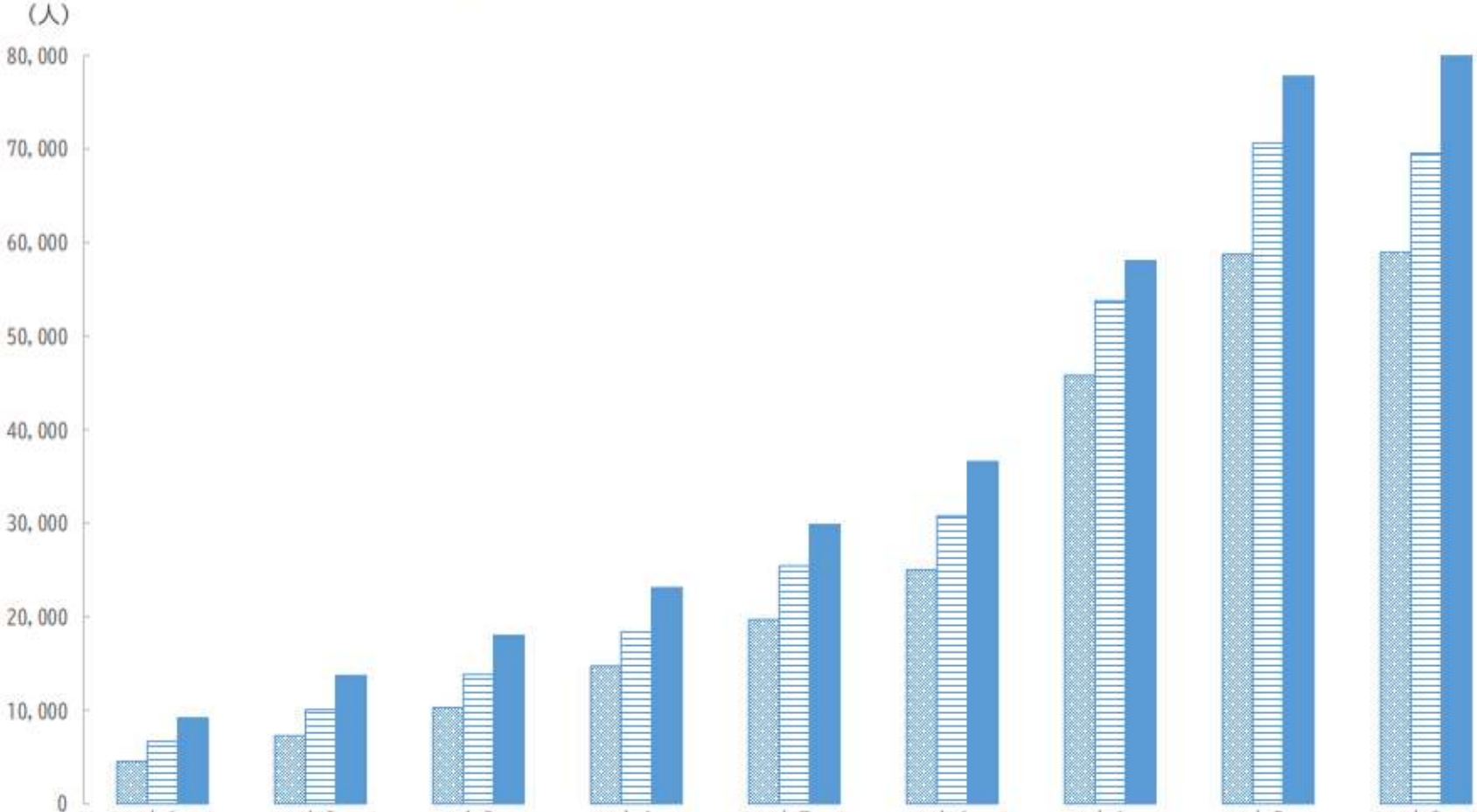
今 全国の学校では・・・

令和６年10月31日公表児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果より

小・中学校における不登校の状況について

学年別不登校児童生徒数

●学年別不登校児童生徒数は、全学年で前年度と比較して増加している。



	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
R3	4,534	7,269	10,289	14,712	19,690	25,004	45,778	58,740	58,924
R4	6,668	10,047	13,823	18,373	25,430	30,771	53,770	70,622	69,544
R5	9,154	13,694	17,997	23,090	29,847	36,588	58,035	77,768	80,309

登校していても不登校？

日本財団による調査（2018）をもとにNPOカタリバが再調査（2023）

長期欠席児童生徒
約46万人

不登校35万含む

＋

中学生“隠れ不登校”42万人
（13%超）
小学生は25万人（推定）

＝

約113万人
（小中学生の約13%）
中学生は5人に1人以上

不登校は、大人からは問題の始まりのように見えるが

子ども本人にとっては最終段階だ！

過剰適応

信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部　本田秀夫

- どこにも相談できない子どもが1/3以上（孤立を防ぐには・・・）
- 不登校の児童生徒数を表面的に減らすことにこだわる弊害
- 不登校の子どもよりも、我慢して登校し続けている子どもの方が心配

学校以外の場で過ごし、学んでいるこどもたちの姿

特定非営利活動法人　ぱーむぼいす

理事長　　池田　剛　さんの話

テーマⅠ

池田さんの話を聞いて

感想や気がついたこと、気になることをグループ内で意見交換

AI先生の登場

- Qubena：算数・数学
- SANTA TOEIC：英語
- Khan Academy + Khanmigo：理科・数学・プログラミング
- Monoxer, atama+, eboard, スタディサプリ等々：５教科

令和7年7月15日 長野県全県指導主事･専門主事会議 早坂 淳 氏 講演会資料より

ここまでのような社会の状況にあって、山ノ内町は

学校DE&Iを大切にしたい!! ＝「人権教育の推進」との重なり

Diversity＝多様性

生活環境、文化やルーツ、特性・能力、性的指向・性自認、学習スタイル、経験や価値観など多様なちがいを持つ人が「ここにいる」ということ。場からの排除をやめること+ちがいがあるということを前提認識にすること。
この際、目に見えるちがい（＝表層的ダイバーシティ）だけでなく、見えづらい違い（深層的ダイバーシティ）も捉えようとしていく

Equity＝公正

個々の状況やニーズに応じて、必要な支援（異なる支援）を必要な人に必要なだけすることで、結果的にみんなが同じ機会にアクセスできるようにすること。いわば社会構造的な格差を是正するという観点

Inclusion＝包摂

異なる背景や特徴を持つすべての人の声が聞かれ、みんなが「それぞれに自分らしさを大切にしながら」「共に」生きられる、過ごせる、働ける、学べる環境をつくり出すこと。排除を生んでいる枠組み自体を問い直し、変えていく。

箱や集団に合わせた教育ではない、どの子もいきいきと学び違いを大事にした学校を目指す。

こどもがまんなか　こどもにやさしいまちづくり

個に応じた環境の一例

ii –1 関係：多様な学習活動が展開できる空間

ii –2 関係:学習活動に柔軟に対応できる多目的な空間

iv 関係：読書・学習・情報のセンターとなる図書館

iii 関係：高度な学びを誘発する創造的な教室

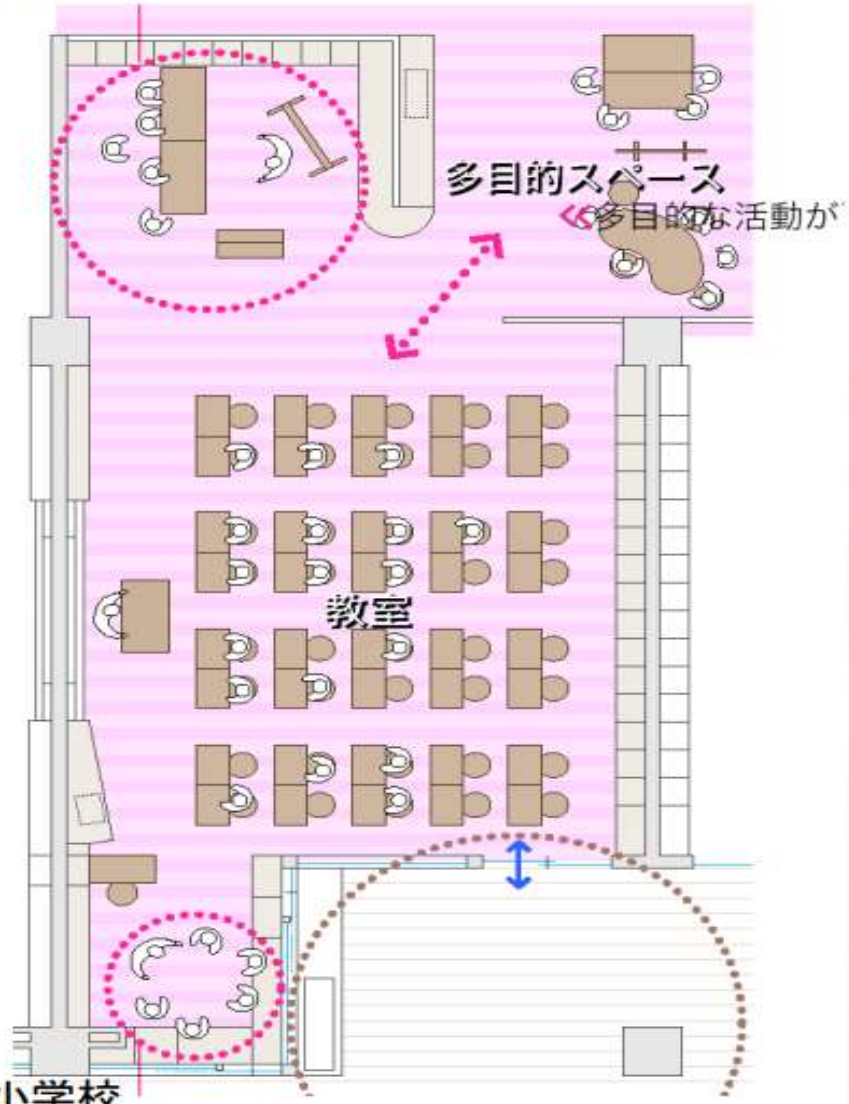
iii 関係：専門的で高度な学びを誘発するラボ

正面のない教室、壁面を生かす

教室再構築　Teaching から Learning へ

・四角い箱からの脱却

・



長澤　悟　創造的な学びの場の実現に向けて

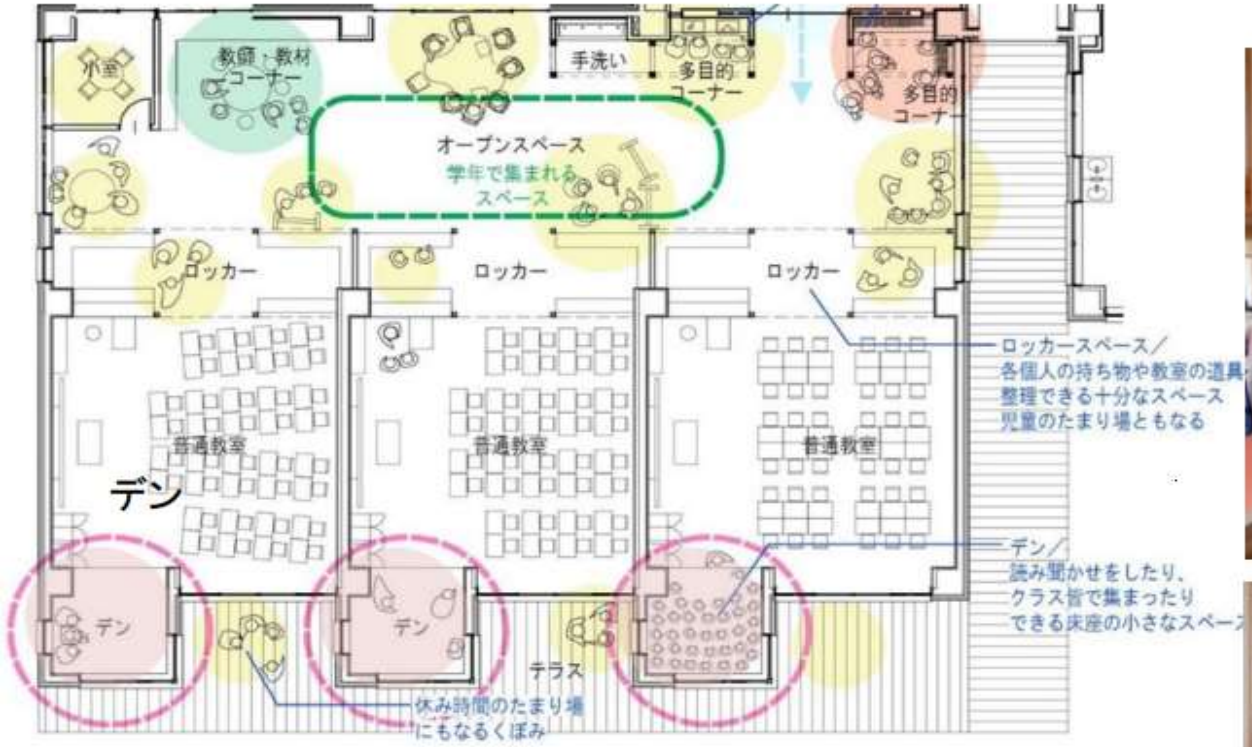
～新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について（中間報告）を踏まえて～　2022.2.9 より

学年コモンズへ　アクティブ・ラーニング等に対応した自由度の高い教室まわり空間

多様な学習集団・学習形態：一人で調べる、みんなで調べる、話し合う、まとめる、発表する

小学校

・多目的スペース：多様な協働的学習に対応する空間　ICT環境、ロッカースペース、小室、デン、教材室、流し等で構成
・多様な**学習材**（図書・プリント・実物等）が用意された場
・ロッカーを教室背面からなくし、教室を自由度の大きい学習空間へ



糸魚川市立糸魚川小学校

長澤　悟　創造的な学びの場の実現に向けて
～新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について（中間報告）を踏まえて～　2022.2.9 より

テーマ2

これからの山ノ内町の学校をイメージして

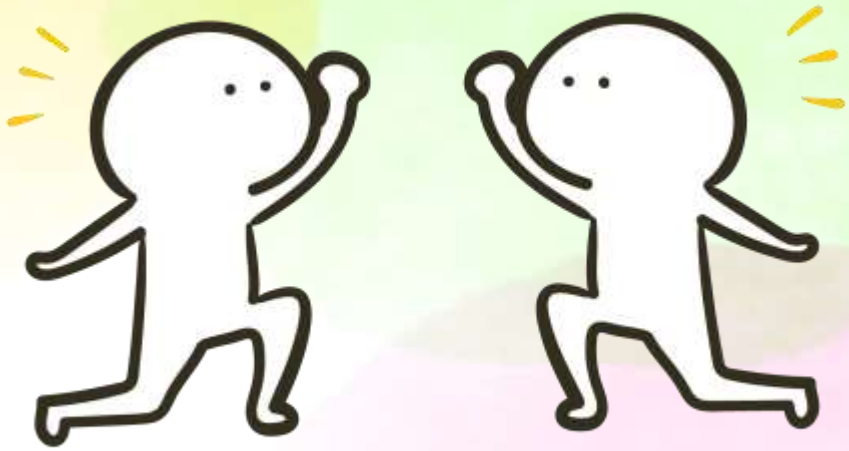
① 様々な学び方がある時代の「学校」の意義は何だろう？

② 多様なこどもたちが、それぞれの持ち味を発揮し、
明日も楽しみになるような学校に必要なことは何だろう？

・ 付箋に自身の意見を書き、模造紙にペタペタ貼って、おしゃべりしてください。

・ 共有の時間では、各グループでの話し合いから考えられたキーワードを3つ示しましょう。
それからどのような話をしたかを2分程度で話してください。

事務局　悩んでおります



「統合に向け、町全体に
学校づくりの機運を高めたい！」

しかし・・・・・

なかなか難しい・・・・・どうしたらいいでしょうか